

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 新道寺 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を上回っている問題も多かったが、全体としては全国平均を下回っていた。知識・技能は全国平均を上回っていたが、思考力・判断力・表現力の「話すこと・聞くこと」課題がある。
	よくできた問題	・人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる問題
	努力が必要な問題	・目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題
算数	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均を上回っていた。その中でも、計算等の知識・技能の正答率が高かった。
	よくできた問題	・除数が小数である場合の除法の計算ができるかどうかをみる問題
	努力が必要な問題	・問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる問題

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「自分にはよいところがあると思いますか」で、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」割合が全国平均を上回っていた。「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」で、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」割合が全国平均を大きく上回っていた。全職員で児童の様子を常に共有し、同じ方向で児童と接している成果だと考える。 ・「友達関係に満足していますか」で、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」割合が全国平均を下回っていた。小規模校でクラス替えもなく人間関係が固定してしまっているのが要因の一つだと考える。 ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」で、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」割合が全国平均を上回っていた。各学年、地域や地域の方との関りをもつ学習を積み重ねている成果であると考え。 ・「放課後や週末に何をしてお過ごしことが多いですか」で「家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている」割合が全国平均を上回っていた。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを相手に分かりやすく伝える力を付けるために <ul style="list-style-type: none"> ・発表や話し合いの場面で、自分の考えの根拠となる資料や文章をもとに話す組立を考えて話すような指導を継続的に取り組む。 ○友達関係を円滑にしていく力を付けていくために <ul style="list-style-type: none"> ・本年度取り組んでいる「子どもつながりプログラム強化週間」を引き続き実施するとともに、授業だけでなく、機をとらえて自分の気持ちの伝え方等の指導をしていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ○家庭での過ごし方を見直していくために <ul style="list-style-type: none"> ・学校、学年、保健だより等を通じて、家庭での過ごし方の実態やを伝え、家庭でのテレビ視聴やゲーム、SNS等をする時間を含め、家庭生活の見直しを呼びかける。
